

令和7年度 県立日立北高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 全ての生徒が「学ぶ」喜びを実感し、自己実現を果たせるような「学び舎」をつくる。 (2) 校訓「誠実・克己・創造」の実践に努め、豊かな創造性や進取の精神に満ちた校風を継承し、発展させる。 (3) 学習活動と特別活動等との両立を推進し、生徒一人ひとりに自らの未来を切り拓く知性・能力を身につけさせる。 (4) 生徒一人ひとりを大切に教育を実践し、生徒・保護者・地域住民に信頼される「地域に開かれた学校」づくりを推進する。			
三つの方針(スクール・ポリシー)	具体的目標	評価	次年度(学期)への主な課題	
三つの方針(スクール・ポリシー)	育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	①豊かな創造性と進取の精神を備えた、意欲的に学ぶ自立した学習者の育成 ②多様な考え方を受け入れ、協働的に学ぶ姿勢を貫ける地域のリーダーの育成 ③未来を切り拓く知性と能力を身に付けるために、努力を続ける地球市民の育成	B	卒業後進路を見据えた3年間の系統的・継続的な指導を確立する。学校行事や日常の教育活動が育成方針につながるという教職員の意識統一を図る。 生徒一人ひとりの特性や状況に寄り添った指導・支援を行い、学力の定着と自己肯定感の向上を目指す。 自己実現を支える学校づくりを継続的に点検・改善し、本校の教育理念と成果を地域・保護者へ発信する。
	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	①全ての生徒が「学ぶ」喜びを実感し、自己実現を果たせる「学び舎」の実現 ②生徒一人ひとりを大切に、進路実現にこだわったきめ細かな教育の実現 ③ICTを活用し、授業+αの学習を主体的に実践する仕組みづくりの実現	A	
	入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	①己に打ち克ち、学習活動と部活動・特別活動の両立を目指す生徒 ②誠実を重んじ、端正な服装と丁寧な言葉や態度を実践できる生徒 ③創造的であり、知的好奇心と他者に寛大な心を大切にできる生徒	B	
昨年度成果と課題	重点項目	重点目標		達成状況
(学習指導) [成果]令和7年度入試の国公立大学現役合格者数は74名であった。一人ひとりの進路希望を多様な入試形態に対応して検討するなど、3年間を見通した継続的な学習指導やキャリア支援等の成果といえる。1年生の地域探究を経て、2年生で沖縄探究を継続し、成果の共有や発表等の機会を通して、生徒の自主性・行動力・発信力が向上した。 [課題]新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した学力の3要素を育成する授業や評価の在り方を研究していく。	(1) 生徒の進路希望に応じた学力向上の推進 …主体的で深い学びの展開/AIに代替できない力の育成/ICTの活用、授業改善・研究の推進	1 習熟度別授業などの個に応じた指導を、柔軟かつ多様に導入し、基礎的な知識・技能の習得を図る。 2 互見授業等を通して、思考力・判断力・表現力を育成する授業改善・研究を推進し、指導力向上に努める。 KPI指標:授業満足度(思考力・表現力)平均値3.2(80%)以上 3 進路希望に応じた適切な課題や深い内容を取り入れ、ICTの活用を推進する等、AIに代替できない自ら学び続ける力を育成する。		B
	(2) 入りたい大学への積極的な挑戦 …キャリア教育を踏まえた計画的偶発性(体験)の仕掛け/生涯学ぶ力(含Re-skilling)の育成	4 個別面談を充実させ、生徒の自己理解の深化と自己受容を促し、生涯に渡って学びに向かう力を涵養する。 5 様々な進路行事の目的を明確化し、効果的な実践と振り返りを行うことで生徒の学習意欲を喚起し、適切な勤労観・職業観を育成する。 6 進路情報の収集と的確な提供に努め、生徒一人ひとりの進路に複数の教員がサポートする協力体制を構築する。 7 計画的偶発性を踏まえた体験的進路行事を推進すると共に、課外指導では、習熟度別講座等を取り入れて効果的な指導に努める。		A
(豊かな心の育成) [成果]生徒は穏やかで協調性があり、落ち着いた学校生活を送っている。システム手帳の活用は、時間管理・自己管理に寄与している。 [課題]主体的に課題を見つけ、分析・判断し、自己を表現できる生徒の育成に努めていく。	(3) 「豊かな心」の育成 …多様性(Diversity)を認め合う力・共感力(Empathy)をもったグローバル人材の育成	8 環境教育やボランティア活動を推進し、多様性を認め合える心と他者への思いやりを育み、いじめには組織全体で迅速に対応する。 9 相手の立場になって考え、行動できる共感力(Empathy)と人間性を育み、SNS使用の自己管理能力を高める。 10 国際理解教育を推進し、互いの違いを認め、グローバルな視点を持ちローカルな社会でも活躍できる人材育成を目指す。 11 コンプライアンスを遵守するとともに、体罰・暴言によらない指導を実践する。 12 特別な配慮を要する生徒への、共通理解を図り、合理的配慮や適切な支援について研修を行い、対応力を向上させる。		B
	(4) 学習活動と部活動・特別活動の両立 …文武不岐に挑戦(Challenge)する力・躰きからの回復力(Resilience)・自己肯定感の育成	13 部活動の一層の活性化を図り、活動をとって、挑戦する力・躰きからしなやかに回復する力(Resilience)・自己肯定感を育む。 14 特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)を充実させ、キャリアパスポートを活用し規律や協働性を養う。		B
(学習活動と部活動・特別活動の両立) [成果]部活動・生徒会活動に積極的に参加しており、部活動加入率は8割を超えている。令和7年度国公立大学現役合格者に占める部活動加入者の割合は81.1%であった。(昨年度は88.1%) [課題]学びに向かう力・学び続ける頑健な心身の育成に努めていく。	(5) 健康と安全への配慮 …生徒への伴走/寄り添い(Put one's feet into someone's shoes.)、働き方改革の推進	15 健康教育の推進や環境整備を通して、生徒及び教職員の健康の維持・増進を図る。 16 生徒への寄り添いを重視して、生徒相談の充実にも努め、スクールカウンセラーと連携し、自身や他者の生命を大切に思う心を育む。 17 学校行事の効果的配置や校務の適正化・効率化を推進することにより、教員の働き方を改革し、更なる教育活動の有効化を追求する。		B
	(6) 情報公開の積極化 …魅力の発信と広報体制の充実、志願者確保、「泥臭さは日北の専売特許」のアピール	18 学校評議員会・PTA・同窓会等との連携を強化し、生徒の活躍ぶりの広報と学校の情報公開に努める。 19 学校説明会(夏・秋)の内容を充実させ、中学校・学習塾等への訪問を積極的に実施し、魅力の発信と志願者確保に努める。 20 ポスター・スクールガイドの内容を刷新し、ホームページの更新頻度を高め、広報体制を充実させる。 21 「学年だより」「学級通信」「進路情報」「保健だより」等を通して、必要な情報を生徒・保護者に提供する。		A
(今後のビジョン) 丁寧な学習指導と多様な体験活動を継続して生徒一人ひとりの可能性を広げ、進路希望を実現する。豊かな人間力と課題解決力を備えた人材を、輩出する進学校として、地域からの信頼を得られるよう努める。	(7) 今後のビジョンの具体化と、ビジョンに沿った教育活動の展開 …地域と連携し、地域に愛されるグローバル(Global+Local)な高校へ	22 本校の将来像を見据え、ランドデザインに基づきグローバル(Global+Local)な教育活動を展開する。 23 地域の中の学校として連携を進めつつ、地域に愛される普通科高校の在り方について検討を進める。		A

評価項目	具体的目標	具体的方策			評価	次年度(学期)への主な課題		
教科指導	国語	授業満足度を高め、理解を深める指導	授業改善を進めつつ、学習の目的・内容を明らかにし、わかる授業の展開に努める。	1,2	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいに向けて必要な課題を設定し、段階的な学びにつながる授業展開を意識することが出来た。 ・文章を要約したり、大きく筋を捉える読解力や的確に表現する文章力を身につけるための演習を意識して取り入れていきたい。 	
		積極的な学習態度の育成	課題学習を通して、自ら課題を見付け解決する能力を養う。	3,4	B			
		基礎学力の向上	予習・復習の取り組みを習慣化させ、家庭学習の定着を図る。	予習・復習の取り組みを習慣化させ、家庭学習の定着を図る。	1	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストや課題などを活用し、生徒の学習意欲の向上と、学習習慣の定着を図ることが出来た。 ・授業の中で教科書以外の様々な分野の教材を取り入れ、演習の時間も確保しながら応用力の向上に力を入れた。 ・次年度もICTを用いて授業の効率化を図り、生徒が主体の場を増やしていきたい。
			小テスト等を実施して学力の把握に努めるとともに、ICTの活用などで展開を工夫し、生徒が主体となる学びの場を設定する。	小テスト等を実施して学力の把握に努めるとともに、ICTの活用などで展開を工夫し、生徒が主体となる学びの場を設定する。	1,2	A		
大学進学に対応した学力の向上	課外等を実施し、問題の演習を重ねながら基礎力を高め、応用力の向上を図る。	課外等を実施し、問題の演習を重ねながら基礎力を高め、応用力の向上を図る。	3,7	A				
地歴	授業満足度を高め、基礎学力の向上を図る。	授業改善を進めつつ、シラバス等に基づいた授業を展開し、系統的な指導による知識の理解をすすめる。	1,2	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむねシラバス通りに授業を進められた。扱う教材を工夫することで授業内容を理解させ、試験で点数を取らせることに努めていく。 ・ICTを使用する以外にも知識の定着化には方法があると感じる。ICTはあくまで手段であり、これを使うことが授業の目標ではないことを念頭に置いてICTの活用をはかっていきたい。 		
	家庭学習の定着に努める。	ドリル等を実施し、授業内容の定着を図る。ICTを活用して知識の習得を図る。	1,3	A				
公民	大学進学に対応した学力の向上	小論文指導を通して、思考・判断力の醸成に努める。	1,3	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文の指導においては、生徒に差が出ている。思考・判断力の育成のためには普段の授業からの工夫が必要であると感ずる。 ・ネットワークの環境がある程度整ったことにより時事問題に関する調べ学習や情報収集はしやすくなった。時事的なことに関心を持たせるか工夫をしていきたい。 		
	授業満足度を高め、公民的思考力を養う。	授業改善を進めつつ、時事問題に関心を持たせ、自己の在り方・生き方を考えさせる。ネットワークを活用して目的に応じて様々な情報を集める。	3,10	B				
数学	授業満足度を高め、基礎学力の向上を図る。	演習・授業で少人数授業や習熟度別授業を積極的に活用し、生徒が学習しやすい環境をつくる。	1	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着のための課外や補習等の支援ができています。生徒たちの力をさらに伸ばすためには現状を的確に把握し、指導を工夫していく。 ・ICTの活用を進め、動画配信を家庭学習の習慣化に繋がるような工夫の一つとして検討していく。 ・入試を見据えた授業進度や考査の難易度の設定など、教科会などを通して共通理解を図れている。教科全体で共通理解を持って、異動などでメンバーが替わっても生徒たちのためによりよい指導ができるようなシステムを構築を継続して考えていく。 		
	家庭学習の定着に努める	副教材を用いて計画的に授業の復習をする習慣が身に付くよう、定期的にノートを点検する。また、スタディサプリ等の利用を推進し、自ら学習する姿勢を養う。	2	A				
	大学進学に対応した学力の向上	予習、授業、復習のサイクルを確立させる。特に復習をしっかり行わせることにより「基礎力」から「応用力」の向上を図る。	予習、授業、復習のサイクルを確立させる。特に復習をしっかり行わせることにより「基礎力」から「応用力」の向上を図る。	3			A	
		模擬試験・入試問題を分析し、授業、ドリル、課外等での適切な教材等を提供する。	模擬試験・入試問題を分析し、授業、ドリル、課外等での適切な教材等を提供する。	7			A	
理科	授業満足度を高め、基礎学力の向上を図る。	小テストやドリルなどを実践し、一人ひとりの学力を把握し学力向上を図る。	1,2	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTをより活用した授業を実施していきたい。 ・生徒実験の回数を確保したい。 ・生徒の学習習慣をつける取り組みについて考える。 		
	科学的思考力・判断力を養う。	授業改善を進めつつ、必要に応じてインターネット等を活用し、教科内容と身近な科学技術・日常生活の関連について考察を深める力を育成する。	授業改善を進めつつ、必要に応じてインターネット等を活用し、教科内容と身近な科学技術・日常生活の関連について考察を深める力を育成する。	2,3			A	
		実験・観察を通じ、科学的に判断する力を育成する。	実験・観察を通じ、科学的に判断する力を育成する。	2,3			A	
保健体育	授業時間の確保	集合時間を厳守させ、チャイムと同時に授業が始められるようにする。	1,16	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度達成できなかった県の体力優秀賞を今年度いただくことができたが、継続・向上していくために指導の工夫を検討する。 ・ケガの防止や用具の整理整頓について、年間を通して継続的に指導していく。 		
	授業満足度を高め、頑健な体力と強靱な精神の涵養につとめる。	準備運動や補強運動を工夫し、継続的に体力の向上を図る。	準備運動や補強運動を工夫し、継続的に体力の向上を図る。	2,13			A	
		安全に留意し、自己の体力レベルを確認しつつ常に向上を図る。	安全に留意し、自己の体力レベルを確認しつつ常に向上を図る。	2,13			A	
	授業改善を進めつつ、ICTを活用し、知識及び技術の習得を図る。	授業改善を進めつつ、ICTを活用し、知識及び技術の習得を図る。	1,2	B				
健康の保持増進に努める	感染症の予防や心身の健康について理解を深める。	感染症の予防や心身の健康について理解を深める。	28	B				
芸術	基礎基本の重視	個々の表現に応じ、基礎・基本に重点を置き、知識・技能を修得させる。	1	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術の素晴らしさを強く感じられるよう、ICTを活用した授業案をさらに考案していく。 ・新入生の実態の変化に合わせた課題作りを考える。 ・生徒の芸術科目に対する取り組みの意識が、他教科に比べて低いように感じられるため、その都度、言葉かけ・教室掲示・呼び出し等を行って、提出の徹底を行う。 		
	授業満足度を高め、思考力・判断力・表現力の育成	授業改善を進めつつ、発表の機会を充実させるとともに、グループワークや相互評価の場を充実させることにより他者のアイデアから学べる機会を増やす。	2	B				
	ICTの活用	お手本動画の作成、グループワークでのチャット機能等の活用、振り返りや評価の場面でのネットワーク上での回収・管理などを行い、学びを深める。	3	A				
外国語(英語)	授業満足度を高め、基礎学力の向上を図る。	確認テスト等を利用し、生徒一人ひとりの到達度を把握し、学力の向上を図る。	確認テスト等を利用し、生徒一人ひとりの到達度を把握し、学力の向上を図る。	1	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の英語力向上のために普段より授業改善に努め、その力を適切に評価し更上げていくためにテスト等の作用能力を高める必要がある。そのうえで、変化の大きい大学入試に対応していく。 ・英語外部検定試験の取得を推奨し、引き続き課外等で積極的にサポートしていく。 ・それぞれが研鑽を重ねながら、学年・教員間の連携を密にして、共有したり次の学年に引き継いでいけるものは積極的に活用していく。 ・学習の繰り返しと継続の重要性を授業を通じて生徒に実感させ、基礎学力の定着につなげる。 	
		定期考査・模擬試験等の結果を生徒にきめ細かくフィードバックし、学習への取り組みに反映させる。	定期考査・模擬試験等の結果を生徒にきめ細かくフィードバックし、学習への取り組みに反映させる。	1,4	A			
	家庭学習の定着に努める。	家庭学習の内容を具体的に指示し、ノート提出や小テストで実施状況を確認する。	家庭学習の内容を具体的に指示し、ノート提出や小テストで実施状況を確認する。	1,3	B			
		声かけを丁寧に行い、家庭学習の重要性を認識させるとともに、継続させ習慣化を図る。	声かけを丁寧に行い、家庭学習の重要性を認識させるとともに、継続させ習慣化を図る。	2,12	A			
	受験に対応できる学力を身につけさせる。	授業改善を進めつつ、デジタル教科書やアプリケーションを含めたICTの効果的な活用や教材の精選によって、密度の濃い授業を展開する。	授業改善を進めつつ、デジタル教科書やアプリケーションを含めたICTの効果的な活用や教材の精選によって、密度の濃い授業を展開する。	2,3	B			
		課外授業を通じて、一人ひとりの進路希望に応じた問題演習を課し、学力の向上を図る。	課外授業を通じて、一人ひとりの進路希望に応じた問題演習を課し、学力の向上を図る。	1,7	A			
グローバル人材を育成する。	国内留学や海外留学の機会を生徒に提供し、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成を図る。	国内留学や海外留学の機会を生徒に提供し、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成を図る。	10	A				

評価項目		具体的目標	具体的方策					
家庭	将来を見据えた自立への意識の高揚	今までの自分を見つめる活動と、様々な人の生き方や問題点を探る活動をととして、将来を見つめ、自立への意識を高める。自分の生活をデザインしようとする意識の高揚を図る。	3, 5, 6	A	A	・ニュースや新聞記事を教材に社会の問題と生活を結びつけ、生活課題を考えさせる。 ・ホームプロジェクトの指導をととして自らの生活から生活課題を見つけ、解決していく実践的な態度を育成する。		
		実習・体験学習・ICTの活用をととして、技能の習得を図り、実践的な力を育成する。	1, 8, 12	A				
		グループ活動をととして、協働的な学びを進め、協調性を育成する。	9, 12	A				
		授業改善を進めつつ、自らの生活から生活課題を見つけ、解決していく実践的な態度を育成する。	1, 8	B				
		課題を解決するために思考し、判断した内容をレポート等でまとめる力を育成する。	3, 5, 12	B				
	授業満足度を高め、自立した生活に必要な知識・技能の定着を図るとともに、適切な価値判断と意思決定をする力の育成	情報通信ネットワークとコミュニケーションについてその仕組みの理解とマナーについて理解させる。	9	A	B	・共通テストを見据えて「データ活用・分析能力」の強化を意識し、単なるツール操作にとどまらず、与えられたデータから傾向を読み解き、考察する実践的な演習時間を増やす。 ・情報社会の仕組みや影響について、用語の理解(知識)で終わらせず、具体的な事象と結びつけて論理的に考察させる問いかけや課題設定を工夫し、理解の深化を図る。 ・情報の科学的な理解と社会的な影響(メリット・デメリット)を関連付けて捉えさせるため、ディスカッションや事例研究を効果的に取り入れる。		
		情報化の推進と社会への影響及びその功罪について考えさせる。	2	B				
		コンピュータやデータの活用の方法を実習をととして具体的に理解し、技能を育成する。	1	B				
		授業改善を進めつつ、ICTを活用し個に合った問題演習を課し学力の向上を図る。	3, 7	A				
		情報社会に参画する態度を育成する。						
情報	授業満足度を高め、受験に対応できる確かな学力を身につけさせる。	調整日を設けるなど工夫して授業実施時間に不均衡が生じない年間計画の策定を行う。	1, 17	A	A	・業務マニュアル整備が継続的に進んでいる。 ・授業力向上に資するため互見授業の機会を年間10回設定しているが、その実施回数を高め授業力向上に結び付けるための工夫が問われている。 ・教育目標の具体化と目的意識の共有を図り1つ1つの事業に対し主体的で積極的な取り組みとなるように企画する。 ・国際理解教育の具体的な事業へとつなげる方向性が決定し、今後は海外派遣を含めた行事を持続的に実行していく。 ・ICT教育への対応及びルール策定を整備している。 ・PRの仕方について、福島県への中学校訪問や、従来の中学生対象の説明会を実施したが、本校の良さを確認しつつ効果的に発信したい。新しい学力観に基づく評価の在り方の検討を進め改善に向け情報共有を重ねている。		
		積極的な互見授業等を通して、生徒の学力向上に不可欠な授業力の向上を図り、授業改善を推進する。	2, 3	A				
	達成目標に準拠した学習内容・方法について教科シラバスの再検討を行い、「分かる授業」を実施し、授業満足度を高める。	1, 3	B					
	すべての教科で主体的に学ぶ学習場面を増やすとともに、3年間を見通した「総合的な探究の時間」の指導を通して自ら学ぶ意欲を向上させ、学ぶ喜びを実感させる。	3, 5, 10	A					
	新学習指導要領に対応し、生徒にきめ細かく対応できる教育課程への移行を行う。	11, 12, 22	A					
	図書利用の促進	図書部関連行事の充実を図る。	16	A			A	・学習を支える書籍(百科事典など)を刷新し、そのための予算請求をする。 ・生徒の意見を踏まえた図書館運営をする。 ・大学入試を支える図書館の蔵書整備と、公共図書館との連携を視野に入れた学校図書館の運営をする。
		書籍、資料等の利用を促進させる。	13	B				
		図書委員会活動を活性化させる。	13	A				
		ICTを活用した、書籍・資料の充実に努める。	13	A				
	教務	学年の協体制作り	生徒に関する情報交換を密にする。	9, 16			A	A
生徒の現状把握		生徒指導に関する情報、資料の収集と提供に努める。	8, 12, 16	A				
		容儀指導を徹底し、端正で高校生らしい服装・マナーの維持を図る。	8, 9	B				
		登校指導の継続的実施によって、あいさつや身だしなみが整った生徒の育成に努める。	9, 15	B				
		教育相談の充実を図り、生徒の理解に努め、問題の早期発見・早期解決を図る。	16	A				
		幅広く客観性が担保されるよう校則の点検・見直しに取り組む	11	B				
事故の未然防止		登校指導・自転車乗車指導や被害調査を実施し、事故の未然防止に努める。	8	A				
		さわやかマナーアップ運動の積極的な実践を推進する。	8, 9	A				
		貴重品の管理を徹底し、盗難の防止に努める。	8, 9	A				
生徒の意識の高揚		日立北高生としての自覚を持たせ、学校への「学び舎」としての意識を涵養する。	4	B				
	「道徳」や「道徳プラス」においてICTを活用した「心の教育」を実施し、生徒の規範意識を涵養する。	9	B					

評価項目	具体的目標	具体的方策				
進路指導	生徒の適切な進路選択の支援	生徒の主体的な進路選択が支援できるように、個別面談を充実させる。そのために、入試情報などの各種情報を整理して、担任や生徒・保護者に適切に提供する。	4,6 21	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 一つひとつの行事をより一層充実させるために、目的を事前にきちんと共有した上で実施し、効果を検証していく必要がある。 生徒の基礎学力を向上させるための工夫をより一層施行する必要がある。特に、家庭学習習慣の定着に向けた指導の工夫・改善が必要。 学校開放のあり方について、働き方改革もあるが、教員に手当を支給してまでせっかくだからにはもっと利用者を増やすような教員の働きかけや広報が必要。 学校推薦型選抜指導のノウハウ継承には工夫とともに若手教員に対する指導も必要と思われる。 学級減が進む中でも国立大学合格者数を維持し、さらに生徒や保護者の需要を受け、なお増加させるために、各授業のより一層の充実と、さまざまな先生方の研修等への積極的な参加、その情報共有を促進していく必要がある。
		職業観育成セミナー、進路観育成セミナー、大学模擬授業など、進路関連のさまざまな行事を通して、生徒が自分の将来について真剣に考える機会を設ける。また、行事内容のより一層の充実と精選を図る。	5,6 14,17	A		
		茨城大学工学部インターンシップ、一日看護体験などの希望者対象の各種進路体験を生徒に積極的に案内し、自分の進路に対する視野を広げる機会を増やす。	5,6 14	A		
	生徒の基礎学力の向上	授業を中心とした予習・復習の習慣を定着させる。そのためにシステム帳の活用や、スタディサブリの活用・普及に向けて、学年や担任をサポートする。	3,4	B		
		実力養成のための学習機会を確保するため、朝ドリル・小論文指導・面接指導・実技指導・模擬試験・平常課外・長期休業日課外等を実施する。また、土曜登校日・早朝夜間自習室開放・休日自習室開放への積極的参加を推進する。	1,3 7	B		
		入試問題や入試情報・受験報告書等の整理と適切な提供に努め、学習意欲の喚起と学力の向上を図る。	3,6 21	A		
		職業探究、学問探究、地域探究、沖縄探究という一連の探究活動を通して、自分で課題を発見し、それを突き詰めていく力を育成する。	3,5 14	A		
指導のノウハウの継承	進路分析会を毎年開催し、学年や担任の指導のノウハウの伝達や継承、改善を図る。	6,22 23	A			
保健厚生	生徒の心身の健康増進	健康の推進や環境整備を通して、生徒の健康の維持・増進を図る。	15	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭不在時の保健室担当についての改善(保健厚生部のメンバーを増やしてもらいたい) 避難訓練時の備用品配布を行うことを忘れないように行う 教員数が少なくなる中での掃除担当区域の変更が必要
		定期健康診断が円滑かつ効果的に行えるよう体制を強化する。	15	A		
		感染症予防体制の強化を図る。	15	B		
		養護教諭不在時の応急処理体制の強化を図る。	15,16	A		
		感染症、栄養、運動、休養、保健室等の利用状況について「保健室だより」を月1回発行する。	15,16	B		
		保健厚生部広報紙「葵」を年1回発行する。	15,16	A		
	安全で快適な教育環境の維持に努める	ゴミ処理の分別が円滑に行えるよう、生徒への指導を徹底する。	15	A		
		短時間で効果的な清掃が行えるよう清掃方法を指導する。	15	A		
		防災訓練を実施し、非常時の安全確保に備える。	15	B		
		エアコンの使用について、使用温度等の規則の徹底を図る。	15	A		
		大掃除の実施時期と係分担を定め、効率的・効果的に環境の美化に努める。	17	A		
		奨学生募集のインターネット化に対応できるよう、厚生係の体制の強化を図る。	17	A		
		専門家による性教育を実施する。	15	B		
		特別支援教育の充実に努める。	12,16	A		
特別活動	ホームルーム活動の充実を図る。	年間計画に従い、計画的なロングホームルームの運営を行う。	17,20	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 分掌全体としてはチームとして連携しながら業務に当たることができた。 LHRについては学校・学年の行事との兼ね合いなどで計画的な実施ができていたとは言いがたい。特別活動が求められる教育的意義を学校全体で共有し、計画的なLHRの計画・実施によって生徒の諸能力を高めていくべきである。 勤務時間や教員一人一人の考え方を考慮した部活動顧問の適切な配置については今後学校全体で検討されていくべき課題である。合わせて、本校に設置されていない部活動の大会参加・引率についても同様である。 生徒会の補欠選挙が実施されるなど、生徒会そのものを希望する生徒が減少傾向である。生徒一人一人が学校を変えられると感じられるような空気感の醸成や指導・対応が学校全体で求められると考える。
		ホームルーム活動指導資料集の活用を進めるとともに、キャリアパスポートを活用し規律や協調性を養う。	14	B		
	部活動の活性化を目指す。	学業との両立を基本に、より活発な部活動を目指す。	13, 19,22	A		
		部活動への積極的な参加を促し、バランスのとれた部活動編成に努める。	13,19	B		
		施設・設備の整理・整頓に努め、自ら活動環境を整えようとする意識を高める。	14,15	A		
	開かれた生徒会活動を目指して指導する。	「生徒会だより」を発行し、ICTの活用を推進するなどし広報に努める。	20,21	A		
生徒会活動を手伝うボランティアを一般生徒から広く募り、一緒に生徒会活動を行っていく。		8,20	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策				
渉外	学校に対する保護者の意識を高め、保護者との連携を図る。	学校の教育活動広報のため、PTA広報紙を発行する。	18	A	A	PTA役員・学年委員希望者が減少しており、選出方法を検討していきたい。 ICT等の活用でPTA活動をさらに効率化していきたい。
		社会人(卒業生)による職業講話を実施し、生徒の進路選択に資する。	5	A		
		保護者と協働して、生徒へマナーアップの呼びかけを行う。	18	A		
		ICT等を活用してPTA活動の業務の効率化を図る。	15,18	B		
	同窓会との連絡を密にし、同窓会活動に協力する。	同窓会役員と定期的に連絡を取り、情報交換に努める。	18	A		
		同窓会幹事に学校の動向を伝える。	18	A		
1学年	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣を確立する。【礼儀・挨拶】【ルール・マナーを守る】【時間・期限厳守】【人の話を聞く】【清掃を大切にす】	8, 9	B	A	・全体として基本的生活習慣は身についたが、依然として一部の生徒には継続した指導が必要である。今後も教員が見本となり、粘り強く指導を継続していきたい。 ・集団生活に適応できる人材の育成を目指し、授業や探究活動を通して、他者と協働する機会を設けた。 ・課題を計画的に提示し、先を見据えて学習に取り組む姿勢の育成を図ってきたが、学習習慣の定着には個人差がある。今後は、よりきめ細かな声かけや支援の工夫が必要である。 ・Google Classroom、スタディアサブリ、ロイノートを積極的に活用するとともに、生成AIについても職員間で効果的な活用方法を共有した。 ・朝ドリル、早朝・放課後、長期休業中の課外など、生徒のニーズに応じた学習機会を設けたほか、学習支援を目的とした課外指導も実施した。 ・面談や探究活動を通して進路に対する意識を高めるとともに、各種講演会を計画・実施し、将来について深く考える機会を提供した。
		周囲に対する思いやりの気持ちを持たせ、集団生活に適応できる人材を育成する。	8, 9	A		
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	授業を第一に予習・復習を励行し、基礎・基本を身につけさせる。	2, 3	B		
		ICTを活用したよりよい授業の在り方を研究する。	3	A		
	進路指導の充実	朝ドリル・課外授業に積極的・継続的に取り組ませる。	7	A		
		早期から進路意識を持たせ、進路研究を進めさせる。 個別面談・ホームルーム・集会・講演会等を活用し、自己の将来像を持たせる。	6, 21 4, 5, 6	A B		
2学年	基本的生活習慣の確立	端正な服装、容儀の保持や挨拶などの指導。時間厳守の行動の励行。スマートフォンの適切な使用方法を身につけさせる。	8, 9	A	A	・制服の着こなし・スマートフォンの使用について、改善が必要な生徒が一部存在するので、引き続き地道な指導を継続する必要がある。 ・学習や部活動だけでなく、学校行事やHR活動にも真剣に取り組ませ、粘り強くあきらめない心を育てる。 ・生徒の進路実現のため、進路講演会や進路説明会から生徒との個人面談まで、あらゆる機会を捉えて進路に対する意識を高めていく
	心身ともに健康で情操豊かな生徒の育成	学校行事、部活動、課外等に積極的に参加させ、強い体力、精神力を養うとともに自ら考え、責任ある行動がとれるようにする。		B		
		中堅学年として学校行事や部活動等において中心的な役割を担う意欲を高めさせ、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成する。	13, 14, 15	A		
	学習習慣の改善と進路探究活動の充実	授業を第一とし、予習・復習を含めた家庭学習とドリル、課外等に継続的に取り組ませる。	3	B		
面談、HR、講演会、模試等を活用し、進路希望実現のための支援を多角的に行う。		4, 6	A			
3学年	基本的生活習慣の確立	社会人として必要なTPOに応じた言動(挨拶・身だしなみ・時間管理・マナー・思いやり等)を励行し、継続的に実践できるようにする。	8, 9	A	A	大多数の生徒が基本的生活習慣を身につけ、自らの進路を切り開くために継続的な努力を積み重ねることができた。学年団としてのサポート体制は、進路指導部や他学年教員との連携により手厚く対応できた。特に担任の尽力により個人面談の回数を多く確保することができたことが大きかった。生徒の問題行動についても早めの情報共有ができたため、大きな問題につながる前に対応することができた。
	心身ともに健康で情操豊かな生徒の育成	担任・副担任と生徒との信頼関係をもとに、生徒の良い面をさらに伸ばすよう適切にアドバイスする。	4	B		
		学校行事、部活、清掃、課外等に参加させ、心身を鍛え、自ら考え責任ある行動がとれるようにする。	13, 14	A		
	進路希望実現への支援	授業を第一とし、予習・復習を含めた家庭学習とドリル、課外等に継続的に取り組ませる。	1, 3, 7	B		
		個人面談、HR、講演会、模試等を活用し進路希望実現のための支援を多角的に行う。	4, 5, 6	A		
	組織力の向上	いじめや事故の未然防止のため、学年会等を活用して教員間で生徒情報を共有する。	8	A		
学年団で校務の分担やノウハウ・データの共有を積極的に行う。		17	B			

* 評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない